

平成 2 9 年 1 2 月 議 会
第 4 委 員 会 報 告 資 料

市立霊園における合葬墓等の
検討について（中間報告）

平成 2 9 年 1 2 月 1 8 日

住 宅 都 市 局

市立霊園における合葬墓等の検討について（中間報告）

近年の少子高齢化や死生観の変化などにより、新たな形態の墓地を求めるニーズが高まっていることを受け、現在、市立霊園に合葬墓等の導入を検討している。

合葬墓等基本構想の策定にあたっては、専門的見地からの情報提供や助言を得るため、有識者で構成する「福岡市立霊園における合葬墓等構想委員会」（以下、「構想委員会」）を設置しており、今回、その検討状況について報告を行うもの。

1. 検討概要

1) 構想委員会について

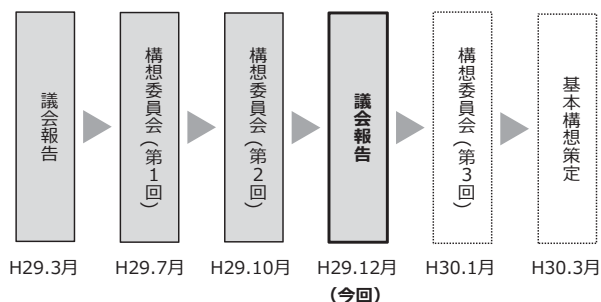
＜構想委員会の開催状況と今後の予定＞

H29.7.25 「福岡市立霊園における合葬墓等構想委員会」の設置

第1回開催 検討の背景、市立霊園の現状把握、他都市の状況の整理

H29.10.3 第2回開催 今後の市立霊園が目指す方向性、整備・運営の基本的な方向性

H30.1 第3回開催(予定) 場所・規模・コンセプト・運営方法の検討



＜委員＞

役職等	氏名	所属等	専門
委員長	朝廣 和夫	九州大学 大学院 芸術工学研究院 准教授	環境設計, 緑地保全
副委員長	小谷 みどり	株式会社第一生命経済研究所 ライフデザイン 研究本部 研究開発室 主席研究員	人間科学, 葬送問題
委員	愛智 ゆみ	公益社団法人日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会 理事 九州支部長	消費生活
委員	白川 琢磨	福岡大学 人文学部 教授	文化人類学, 民俗学, 宗教学
委員	八島 雄士	和歌山大学 観光学部 教授	管理会計, 業績測定, 社会的企業, パークマネジメント

2) 検討内容

(1) 市立霊園を取り巻く現状

①福岡市の人口・世帯動態

・死亡者数の増加 [\[参考資料 図表-1\]](#)

▷ 福岡市の年間死亡者数は平成23年(2011年)に初めて10,000人を超え、高齢化の進展によって今後も増加し、ピーク時の平成60年(2048年)には19,500人に達する見込みである。

・単身世帯数の増加 [\[参考資料 図表-2\]](#)

▷ 福岡市の世帯数は増加し、平成32年(2020年)頃には単身世帯数が2人以上世帯数を超えると推測されている。

②福岡都市圏の墓地・納骨堂

・主な霊園の配置状況

▷ 福岡都市圏の大規模な民営霊園は、大半が市外に立地しており、福岡市内には民営霊園は1箇所しかない。5つの民営霊園が、合葬墓や樹木葬などの承継不要・管理不要の墓所を有しているが、福岡市内にはない。なお、市内の寺院などで永代使用可能な納骨堂も増えてきているが、信徒・檀家でなければ利用できない場合が多い。

・墓地・納骨堂の保有区画数・増数

霊園	墓地・霊園	区画数
	大規模(12法人)	73,570
民営霊園	その他(61法人)	10,615
	納骨堂(204法人)	79,893
公営霊園	公営霊園	10,716

※「福岡市墓地・納骨堂に関するアンケート調査」による



・主な霊園の料金体系

種別	料金体系(合葬墓等を除く)	
	永代使用料(円/m ²)	年間管理料(円/m ²)
公営霊園	172,000・175,000・260,000	1,000・1,200
民営霊園	150,000~300,000	2,000~5,400

大規模な民営霊園(12法人)

③福岡市民の墓地に対するニーズ

～墓地・納骨堂の需給状況調査(平成27年度,平成22年度)～

・新たな墓地・納骨堂の取得意向 [\[参考資料 図表-3,4,5\]](#)

- ▷ 取得を希望する運営形態は、公営霊園が最も高い。
- ▷ 施設形式は、平成27年度と平成22年度の結果を比較すると、「普通墓」が大きく減少しており、「納骨堂」「合葬式の共同墓」が増加している。
- ▷ 墓地・納骨堂を取得する点には、「取得費や管理費用」「自宅からの距離や交通便利性」「管理運営形態」が挙げられている。

・墓地・納骨堂に対する問題意識 [\[参考資料 図表-6\]](#)

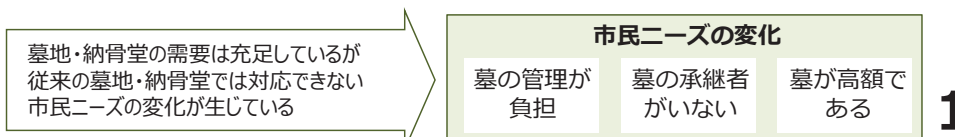
- ▷ 墓地・納骨堂に感じている問題としては、「承継者や墓守がないこと」「維持管理の難しさ」「費用面」が多く挙げられている。

・合葬墓に対する意識 [\[参考資料 図表-7,8\]](#)

- ▷ 合葬墓について、概ね肯定的に捉えられており、「ふさわしくない」と考える市民は4.4%にとどまっている。
- ▷ 合葬墓を利用したい理由は、「子ども等に迷惑をかけたくない」が最も多く、「承継者がいない」「墓等が高額だから」が続いて挙げられている。

・墓地・納骨堂の需給状況

- ▷ 今後予想される死亡者数の増加を考慮しても、墓地で約12年、納骨堂で約18年の需要に対応できる。



市立霊園における合葬墓等の検討について（中間報告）

（2）市立霊園を取り巻く課題

① 高齢化した単独世帯数の増加 【参考資料 図表-2,9】

福岡市の老年人口（65歳以上）は、平成37年(2025年)には全人口の約1/4に、平成52年(2040年)には、全人口の約1/3が老年人口と推測されている。また、世帯数は増加し、特に平成32年(2020年)には単独世帯数が2人以上世帯を上回る見込みである。

② 墓地ニーズの多様化

現在、福岡都市圏では、合葬墓などの新たな形態の墓地は少なく、「子供等に迷惑をかけたくない（墓守問題）」「承継者がいない（承継問題）」「墓等が高額（経済的問題）」などの理由から、公営の合葬墓に対する期待が高まっている。

③ 市立霊園の空き墓所における高い応募倍率

平成24年度から平成28年度の5年間において、3霊園の空き墓所における応募倍率は、平尾霊園が46.1倍、三日月山霊園が21.2倍、西部霊園が27.7倍と、いずれも高倍率であるため、より多くの市民に墓所が提供できていない状況である。

④ 承継者不足による墓の返還 【参考資料 図表-10】

近年、「承継者がいない」等の理由から市立霊園における墓地の返還件数が増加しており、承継者を必要としない墓の検討をしていく必要がある。

（3）委員からの主な意見

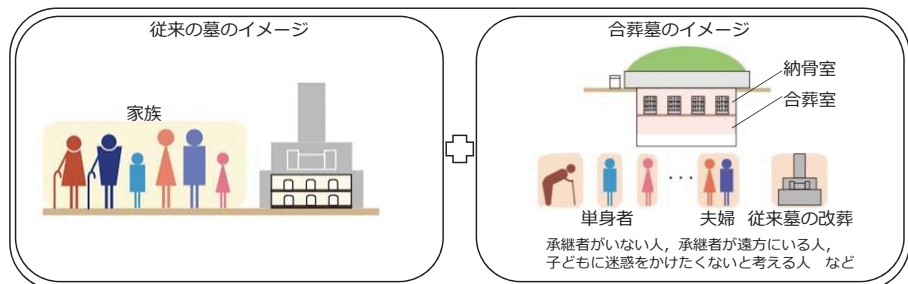
- ・九州は地縁で承継する墓が多い地域であるが、これから問題になる「承継者のいない人が増えてくること」への対応が必要である。
- ・公共の墓地の担う役割として、これまでの墓とは違う、承継を必要としない新しい墓のあり方を、様々な市民を想定しながら、検討していく必要がある。（単身者・子や孫のいない人・子や孫がいても迷惑をかけたくない人など）
- ・合葬墓の導入にあたっては、「家族で守る従来の墓」のみならず「社会みんなで供養し大切に作る墓」という新たな価値観も社会全体で共有していくことが必要である。

（4）市立霊園が目指す方向性(案)

従来の「家族」や「血縁」で守る墓※1を前提にした墓地を維持していくとともに、これからの多様化する社会を見据えた、社会全体で守る墓※2を新たに整備・運営し、幅広い市民ニーズに対応した市立霊園を目指す。

※1；家族や血縁等で代々承継し、先祖や故人を供養する墓
 ※2；承継を前提としない、故人を社会全体で供養する墓

<想定される霊園利用者のイメージ>



（5）今後の市立霊園の整備・運営の基本的な方針(案)

① 合葬墓の導入

- ・社会全体で守る墓として、より多くの市民が利用可能な承継を前提としない「合葬墓」を導入する。
- ・「合葬墓」の導入を契機とした霊園の再整備
 ▷ 老朽化した管理事務所や駐車場など、霊園の付属施設等について、場所や規模などを検討した上で、再整備を進める。

<合葬墓の特徴>

	普通墓	納骨堂	合葬墓
承継	承継を前提とする	承継を前提とする	承継を前提としない
墓参	普通墓の前でお参り	各納骨場所の前でお参り	共同の献花台でお参り
埋葬方法	遺骨を墓の中に安置する。	施設全体を複数の祭祀者が共同で利用する。 遺骨はそれぞれ独立した状態で安置される。	多数の遺骨をひとつの墳墓と一緒に安置する。 納骨室で骨壺を一定期間安置した後、骨壺から遺骨を取り出して、他の遺骨と合わせて合葬室に安置する。 (納骨室・合葬室については、立入不可)
費用	一般的に以下の費用を要す 「永代使用料」 「年間管理料」 「墓建立代」	一般的に以下の費用を要す 「永代使用料」 「年間管理料」	一般的に以下の費用を要す 「永代使用料」
改葬の可否	可能	可能	原則、不可
外観形状 (イメージ)			

② 市民ニーズの向上に向けた運営方法の見直し

- ・利用者サービスの向上
 ▷ 線香や生花の販売、墓の清掃の代行サービスなどの多様な市民ニーズに対応するため、指定管理者制度の導入を検討する。
- ・墓地の無縁化の対策の推進
 ▷ 無縁墓の発生を抑制するため、霊園利用者の「墓じまい」の受け皿として、合葬墓の活用を検討する。

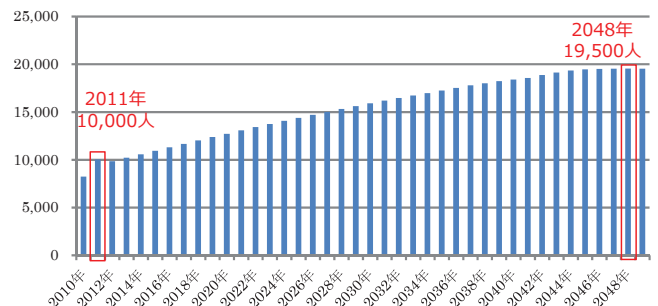
2. 今後の進め方(案)



（１）市立霊園を取り巻く現状

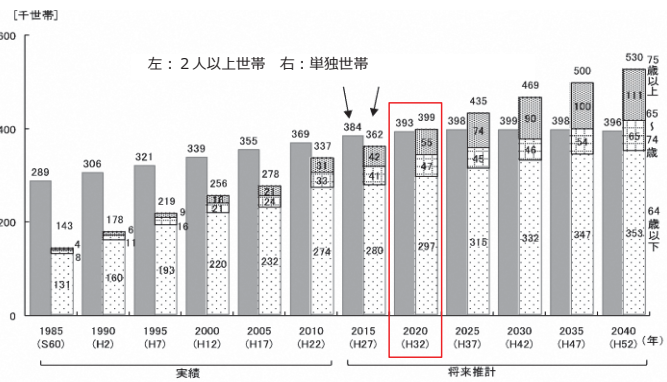
① 福岡市の人口・世帯動態

図表-1 福岡市の年間死亡者数



（出典：福岡市保健福祉局業務委託による資料（平成26年））

図表-2 2人以上世帯数と単独世帯数の推移



（出典：福岡市の将来人口推計について（平成24年））

② 福岡市民の墓地に対するニーズ

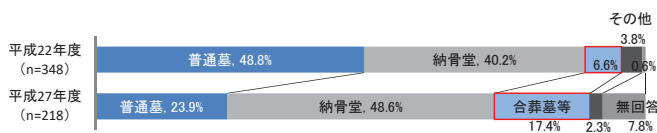
・福岡市民の新たな墓地・納骨堂の取得意向

図表-3 墓地・納骨堂の取得について最も希望する運営形態



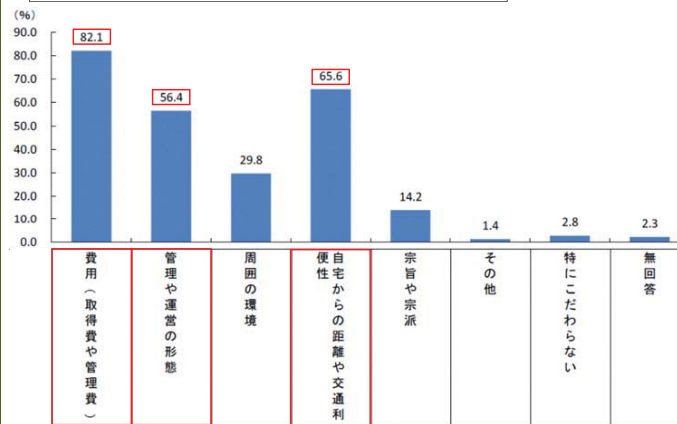
（出典：福岡市における墓地・納骨堂の需給状況について（平成22年・平成27年））

図表-4 墓地・納骨堂の取得について最も希望する施設形式



（出典：福岡市における墓地・納骨堂の需給状況について（平成22年・平成27年））

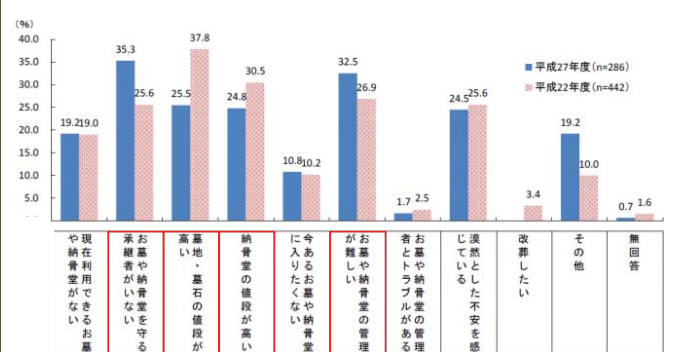
図表-5 墓地・納骨堂の取得について重視する点



（出典：福岡市における墓地・納骨堂の需給状況について（平成22年・平成27年））

・福岡市民の墓地・納骨堂に対する問題意識

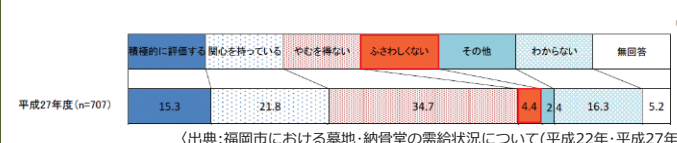
図表-6 墓地・納骨堂の問題点



（出典：福岡市における墓地・納骨堂の需給状況について（平成22年・平成27年））

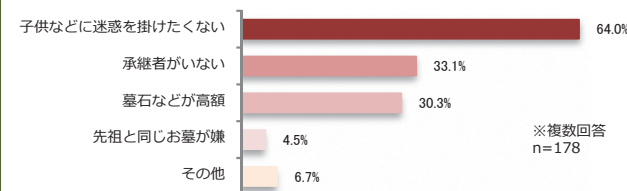
・福岡市民の合葬墓に対する意識

図表-7 合葬墓について



（出典：福岡市における墓地・納骨堂の需給状況について（平成22年・平成27年））

図表-8 合葬墓の利用を希望する理由

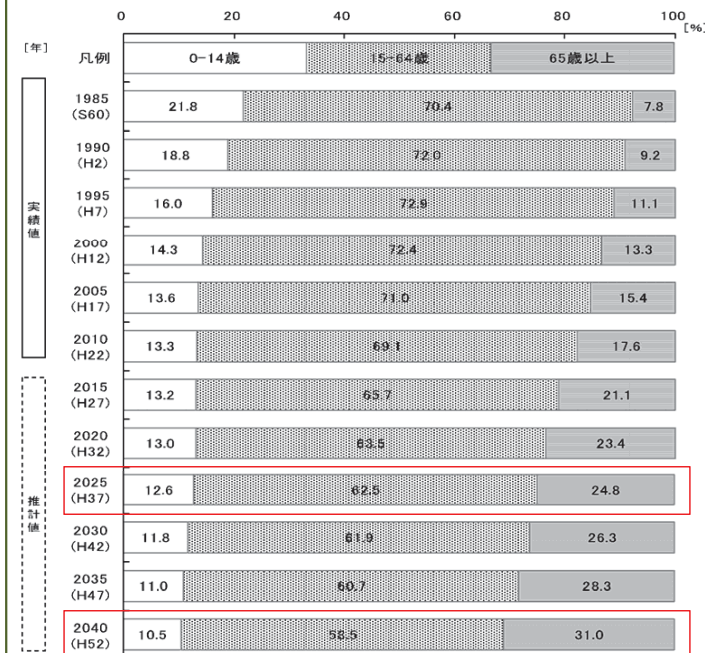


（出典：福岡市における墓地・納骨堂の需給状況について（平成22年・平成27年））

（２）市立霊園を取り巻く課題

① 高齢化した単独世帯数の増加

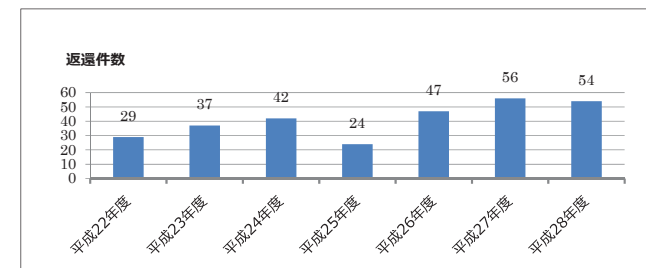
図表-9 年齢階層別人口実績と推計



（出典：国勢調査）

④ 承継者不在などによる墓の返還

図表-10 市立霊園の墓地の返還件数



（出典：みどり運営課）

1. 検討の背景

近年、少子高齢化や死生観の変化などにより、いわゆる「墓離れ」や「墓じまい」の動きが顕著になってきており、他都市においても合葬墓や樹木葬などの新たな形態の墓地を整備する動きが広がっている。（平成28年度現在、21大都市のうち、14都市で導入済み）

福岡市においては、平成27年度に保健福祉局が「福岡市における墓地・納骨堂の需給状況調査」を実施した。同調査によると、福岡都市圏における墓地・納骨堂の需給状況は、墓地が12.7年、納骨堂では18.5年分の供給が可能と推定されるなど、需給状況そのものには余裕があることが分かった。

しかしながら、同調査の市民アンケート調査によると、従来型の墓から**承継を必要としない合葬墓等の新たな形態の墓地**へと市民ニーズが変化していることが分かった。

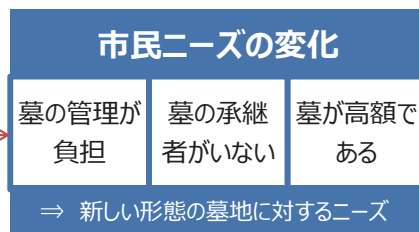
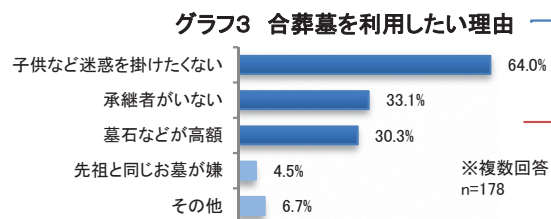
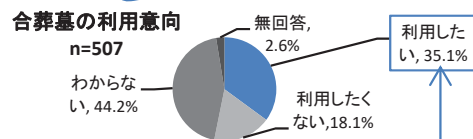
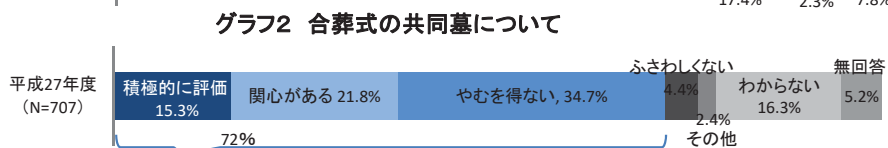
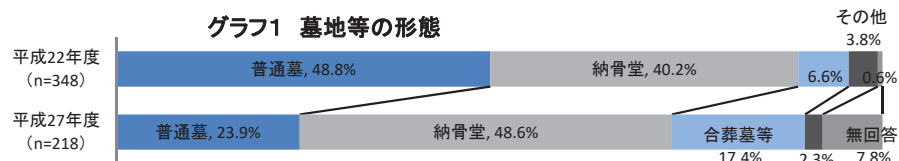
このような状況を踏まえ、市立霊園内に合葬墓等の新形態墓地の導入について検討を進めるもの。

2. 墓に対する市民ニーズ～保健福祉局調査より～

市民アンケート調査概要

- 調査時期
今回）平成27年6月
前回）平成22年12月
- 30代以上の市民
2000人を住民基本台帳から無作為抽出
- 各区の人口比に応じて配布
- 郵送による送付・回収

- 墓の取得意向（改葬を含む）がある人のうち、希望する墓地の形態については、前回よりも墓（普通墓）を希望する割合が約25%減少し、納骨堂が8%、合葬墓等が11%それぞれ増加している。（グラフ1）
- 回答者の約72%が合葬墓等に対して肯定的な評価であり、うち35%の方が合葬墓の利用意向がある。（グラフ2）
- その理由は「子供等に迷惑をかけたくない」「承継者がいない」「墓石等が高額」が上位を占めた。（グラフ3）



3. 合葬墓等の特徴について

合葬墓とは、一つの墓に多くの遺骨と一緒に埋蔵するという新しい形態の墓地で、おおむね次のような特色を持っている。

- 承継を前提としない共同の墓であり、墓を継いでくれる人がいない方も利用できる。
- 納骨堂と異なり、施設内に入って墓参することはできない。
- 施設への納骨後、すぐに他の遺骨と一緒に合葬する方法と、最初は個別に埋蔵し、一定期間経過後に他の遺骨と一緒に合葬する方法を選ぶことができる。
- 施設の管理は霊園管理者が行い、多くの場合、管理料は不要である。

＜大都市における合葬墓の類型＞

霊園名	千葉県桜木霊園	広島市高高原墓園	東京都谷中霊園	新潟市太夫浜霊苑
施設タイプ	慰霊碑型合葬墓	慰霊碑型合葬墓	立体式合葬墓	樹木葬型合葬墓
埋蔵方法	30年間個別埋蔵後に合葬	直接合葬	20年間個別埋蔵後に合葬	直接合葬
承継者	不要	不要	不要	不要
管理料	不要	不要	不要	不要
使用料	70,000円/体	50,000円/体	542,000円/3体	106,800円/体
収蔵可能	24,000体	10,000体	576体	3,800体
特徴	修景に優れた大規模な合葬墓。	小規模な合葬墓で直接合葬のみ対応。	普通墓のように個別の家名板の前で墓参が可能	樹木を墓標の代わりにする樹木葬。焼骨は土に還る。

4. 市立霊園の概要

	平尾霊園	三日月山霊園	西部霊園
墓地の種類	普通墓地のみ	普通墓地のみ	普通墓地、芝生墓地
区画数	4,161区画	2,469区画	4,086区画
1区画の広さ	4㎡～34㎡	4㎡, 5㎡, 6㎡	4㎡のみ
霊園使用料	260,000円/㎡	175,000円/㎡	172,000円/㎡
霊園管理料（年額）	普通墓所：1,000円/㎡		芝生：1,200円/㎡
募集倍率（H24～28）	46.1倍	21.2倍	27.7倍

5. スケジュール（案）

- 平成29年度は、有識者の意見を踏まえて検討を行い、基本構想を取りまとめる。
- 基本構想策定後、平成30年度以降に設計、整備を行っていく。
- 議会には適宜報告を行い、ご意見を伺いながら進めていく。